

吉見町制施行50周年記念事業



範頼

のりより

吉見町ゆかりの人
源頼朝の弟 範頼の物語

きたがわれいこ

まんが 北川玲子

題字 大津瑛 (吉見中学校)

マンガぶるさとの偉人

マンガぶるさとの偉人 範頼 ここにあり

吉見町制施行50周年記念事業

源頼朝の弟 範頼の物語

範頼 ここにあり

吉見町ゆかりの人
源頼朝の弟 範頼の物語



吉見町制施行50周年記念事業

B&G

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

ちょうせいしこう しゅうねんきねんじぎょう
町制施行50周年記念事業

ふるさとゆかりの偉人マンガ

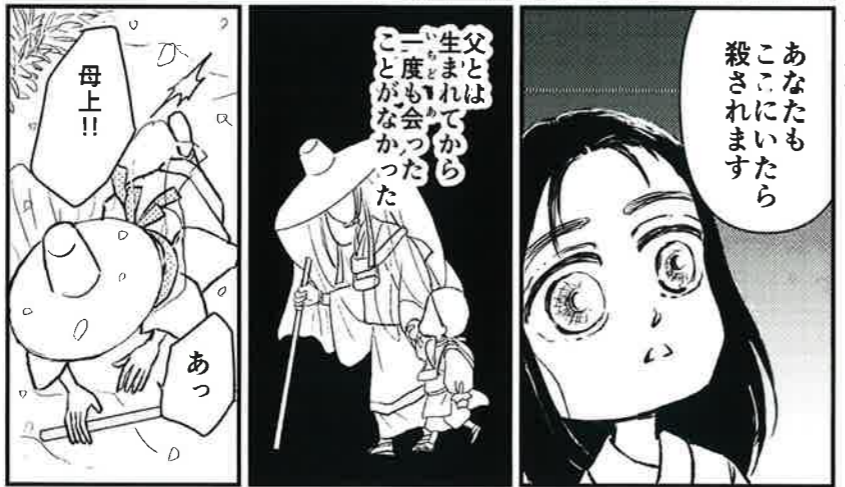
のりより
範頼ここにあり

きた がわ れい こ
北川玲子

読者のみなさまへ

源範頼は、その活躍を記録した資料が少なく不明なことが多い偉人です。本作は源頼の魅力を伝え、興味深く読んでもらうために研究者の説をふまえた上での創作を加えて構成されています。描かれている歴史的事実については、別の説もあることをご了承下さい。





遠江国 今の静岡県西部と中部の一部





源氏の頭領である父源義朝は朝廷に不満を持つ勢力とともに反乱を起こすが

兄か
いたんだ

朝廷側についた平家一門の頭領平清盛によって戦いに敗れる



武蔵国 現在の東京都 埼玉県 横浜市 川崎市

どれだけ
さまよった
だろう

だいじょうぶよ
六郎



父は逃亡中
家来の裏切りで
殺され

兄弟たちも
殺され
あるいは
寺に入れ

あとつぎだった
四男の頼朝だけ
伊豆に幽閉された



むさしのくに よしみ いわどのさん
武蔵国 吉見 岩殿山

武蔵国に
行きついた

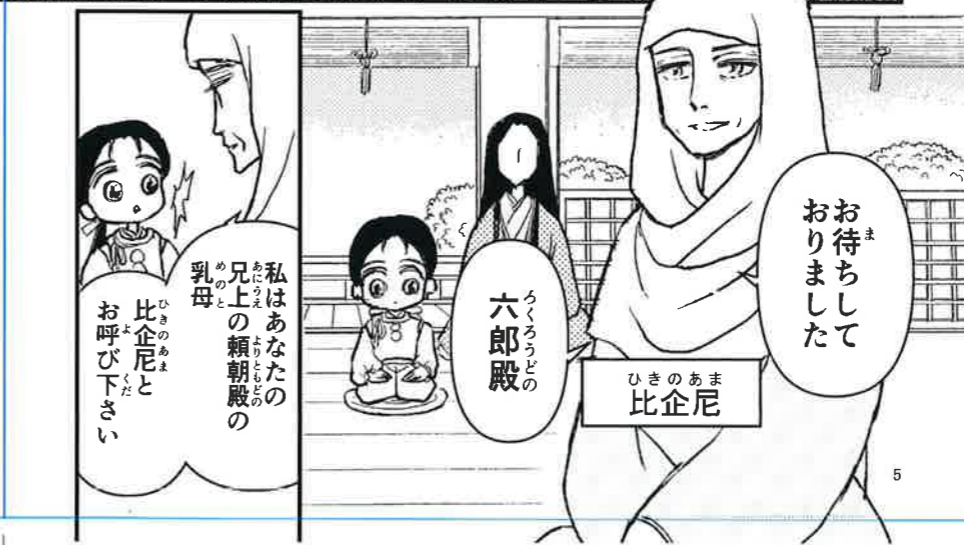


でも平家は
あなたが生まれて
知りません

ここに
身を隠し

いつか
兄と一緒に
父の仇を討ち

源氏を再興
させるのです



お待ちして
おりました

ひきのあま
比企尼

六郎殿

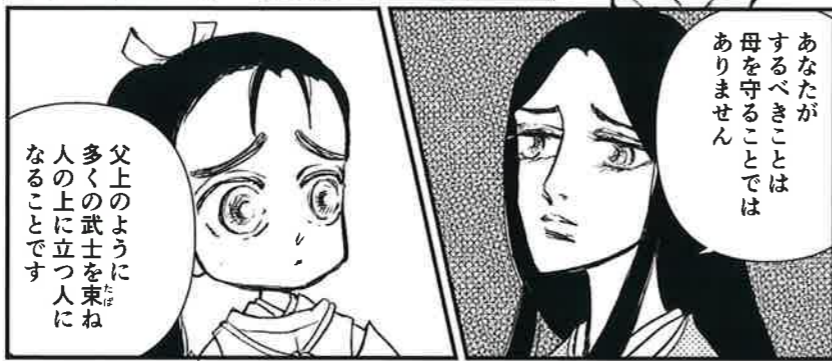
私はあなたの
兄上の頼朝殿の
乳母
比企尼と
お呼び下さい



母上…
六郎 泣きません

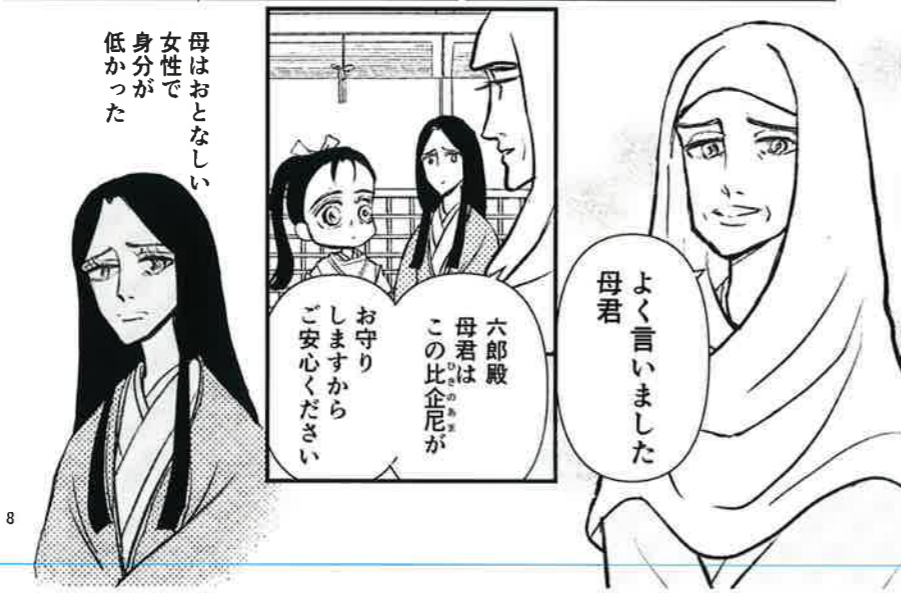
誰が 母上を 守るのです
私が京へ行って しまつては

いやです



父上のように 多くの武士を束ね 人の上に立つ人になることです

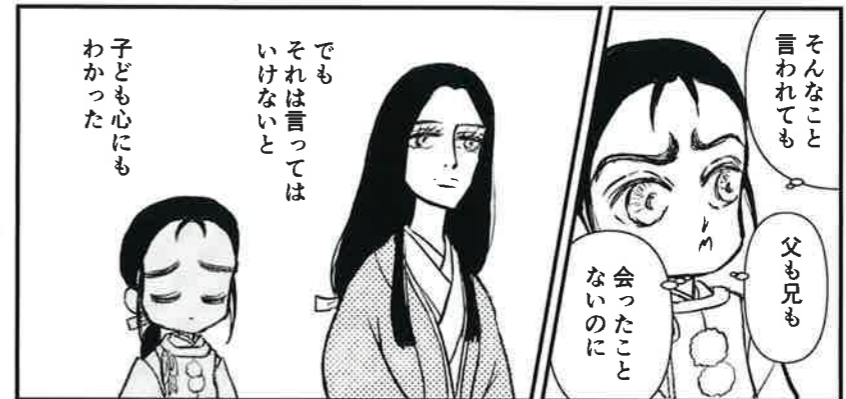
あなたが するべきことは 母を守ることは ありません



母はおとなしい 女性で 身分が 低かった

六郎殿 母君は この比企尼が お守り しますから ご安心ください

よく言いました 母君



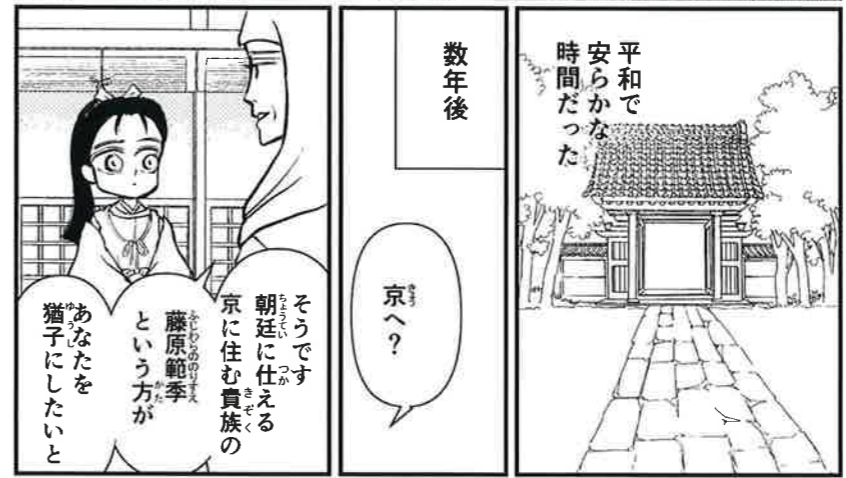
子ども心にも わかつた
でも それは言つては いけないと

父も兄も 会つたこと ないのに

そんなこと 言われても



岩殿山 (息障院) 安楽寺は 大きな寺院で その宿坊の ひとつに 母と暮らした



そうです 朝廷に仕える 京に住む貴族の 藤原範季 という方が あなたを 猶子にしたいと

京へ?

数年後
平和で 安らかな 時間だった

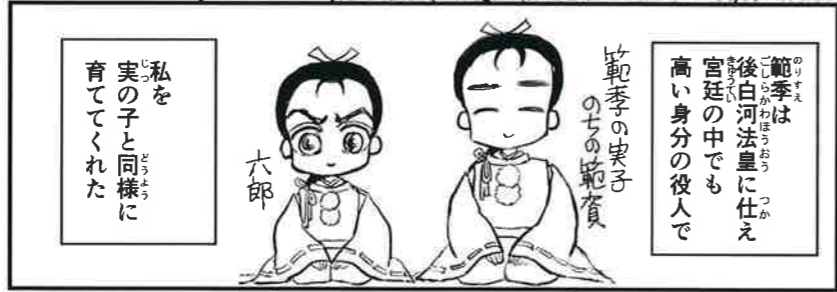
猶子=他人の子を自分の子として親子関係を結ぶこと



なるほど
義朝に面差しが
似ている

そなたが
義朝の子か

ふじわらののりすえ
藤原範季



私を
実の子と同様に
育ててくれた

六郎

範季の奥子
の七の範資

範季は
後白河法皇に仕え
宮廷の中でも
高い身分の役人で



そして
剣術

貴族の子に
ふさわしい
学問 教養
礼儀作法

兵法を
学び

強いな
六郎って

さすが
武士の子



別れの日

体に気を
つけてね

よく学んで

立派な人
なるのですよ

母上



母上...



母上!!



そこで
武士の生き方を
学びなさい

ひきとつた
私を
ですか？

養父上は
なぜ



平家が
権力をふるう
京都に務める
宮廷に務める
養父上が

源義朝の子を
わきとつたと
わかれれば

養父上の宮廷での
地位だけでなく
その身も
危うくなるかも
しれぬのに



今日からそれが
そなたの名だ

範頼

やがて
元服を迎える



「範」は
私の名の
範季から

そなたの兄の
頼朝の「頼」

「頼」は



何んなこと
大局を
見ることだ

何恐るもの
はない

大局を
見れば
あれるが

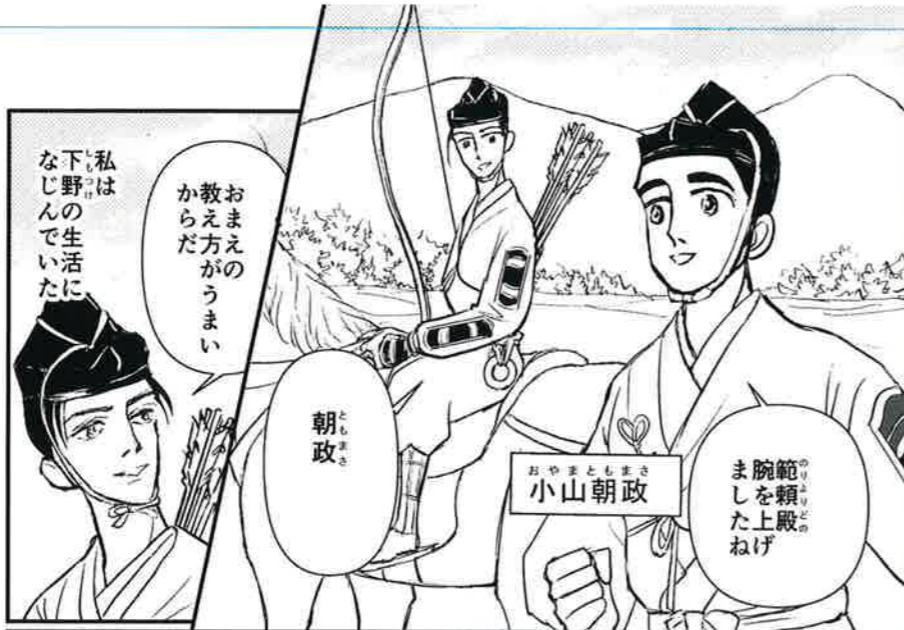


養父上!!
それは私が
源氏の子で
あることを
思ってた名!?

ここには
もうそなたが
学ぶものはない
私が国司を
している
下野国にいる
小山政光という
名門の武家に
そなたを頼んだ

下野国へ
行きなさい

国司=朝廷から、その国を支配するために派遣された役人



私は下野の生活になじんでいた

おまえのうまいからだ

朝政

腕を頼った上殿ねげ

ま腕を頼った上殿ねげ



おやい位世に高倉天皇

おまほ

その幼い息子を安徳天皇として即位させた

その都では平清盛は天皇に嫁がせた娘の徳子を生み

安徳天皇

建礼門院 徳子



志田義広が土地をよこせと言ってきたわ!!

都から遠い坂東では

平清盛

私に逆らえる者はいない!!

平家の人にあらずば

清盛め!!

後白河法皇

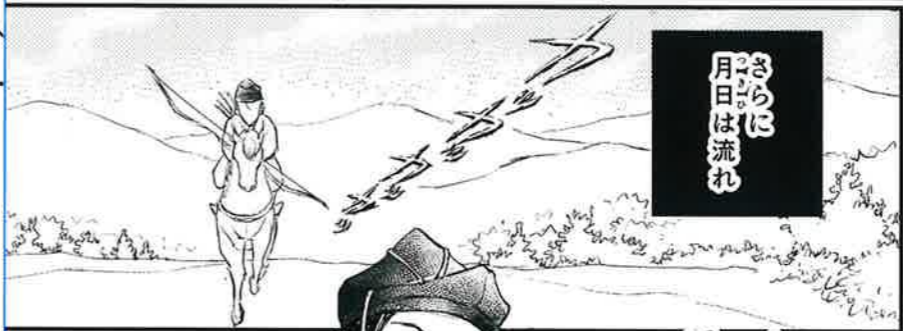


母は私が京にいる間に病で亡くなった

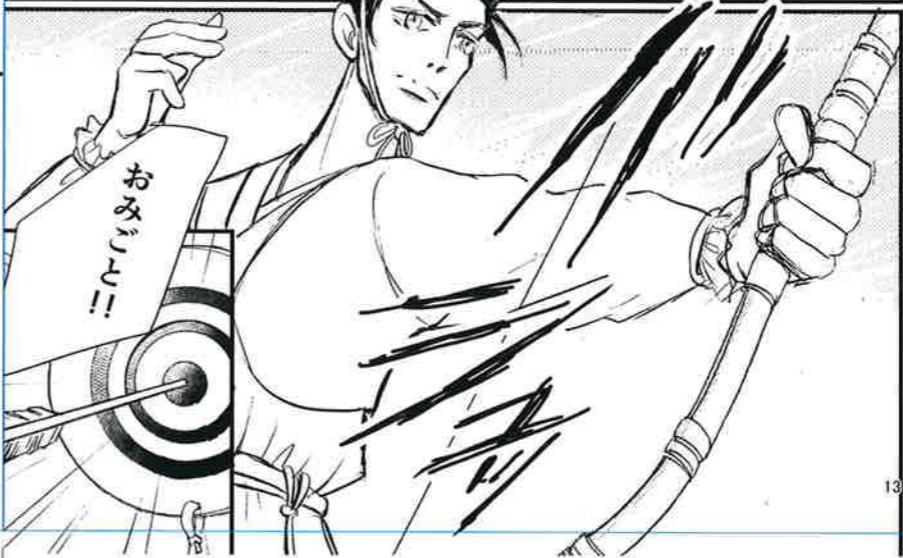
立派な人になるのですよ

母上

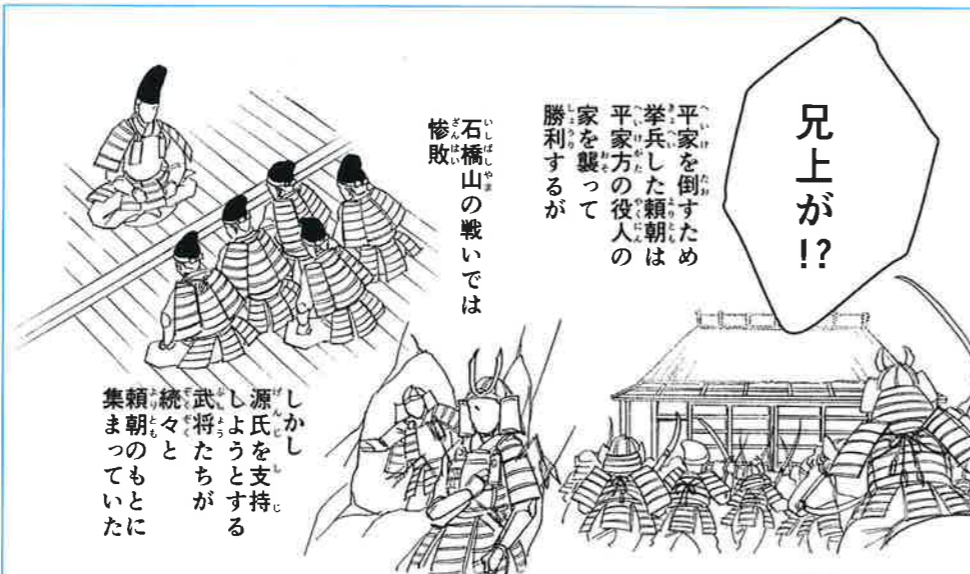
こうして私は下野に向かった



さらさらには月日は流れ



おまじと!!



兄上が!?

平家を倒すため
挙兵した頼朝は
平家方の役人の
家を襲って
勝利するが

石橋山の戦いでは
惨敗

しかし源氏を支持し
源氏を支持する
武將たちが
統々と
頼朝のままと
集まっていた



都の権力争いなど
何の関係もなく
武士たちは

許せん!!

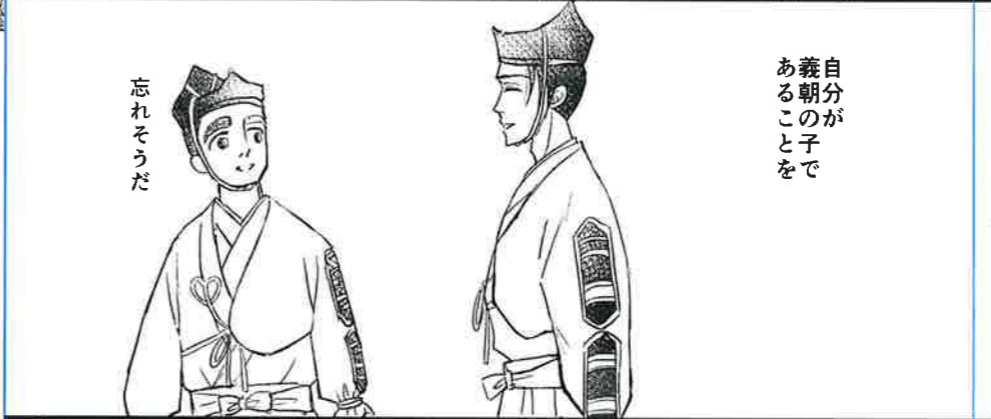
つまつま
おやまさみつ
小山政光の妻
のちのち
(後の寒川尼)

土地をめぐる
いざこざに
明け暮れていた

ここは
遠いな

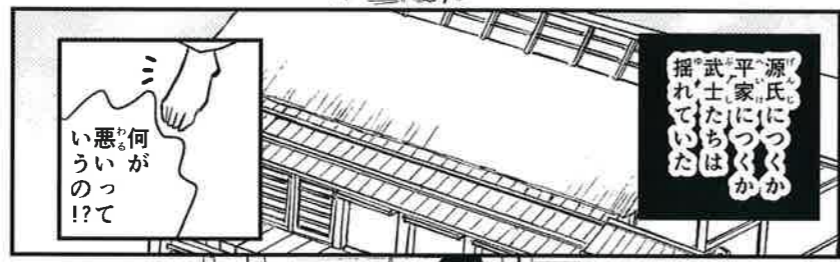
平家を
討つなんて

今度
行平も
討つなんて
討つなんて



自分が
義朝の子で
あることを

忘れそうだ



い悪うの!?て

源氏につくか
平家につくか
武士たちは
揺れていた



どうしたのです
おふたりとも

範頼殿…

母上が…

だから
京にいます
父上は
軽率なことをして
平家の耳に
入ったから
父上の身が…



伊豆に幽閉され
挙兵しました!!

しかし
たつて
月日が

大変です!!



行きましょう

志田義広

悪仲頼しか
かが朝とは

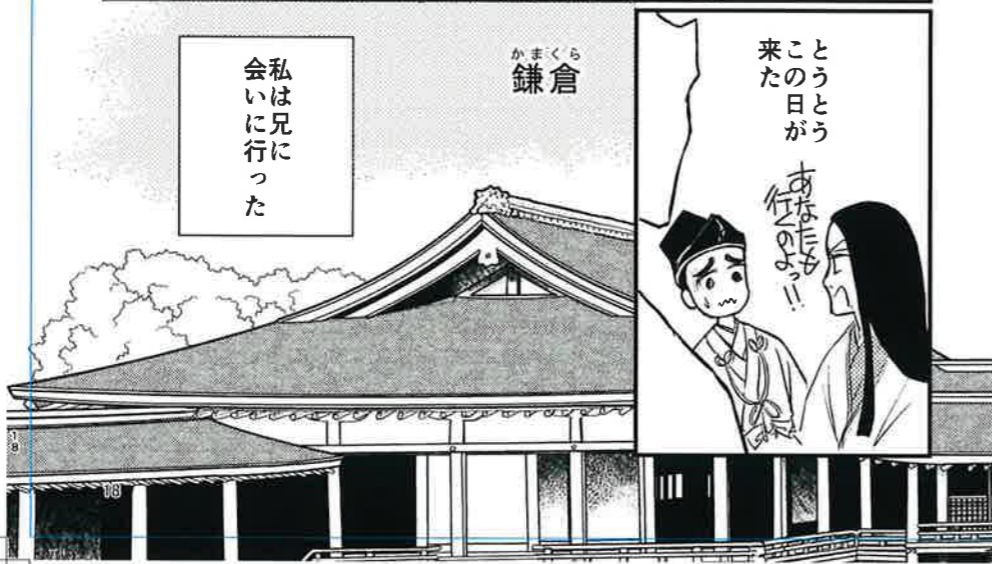
つ下甥
かには頼朝の

やわしはわしの
平家を討つ



会私も兄に
いたかっ

兄に会いに
行きます



会私は兄に
行った

鎌倉



来こうとう
たの日は

おなま
行のよ!!



母上が行頼朝に
会いに行

範頼殿がうちに
いることすまわれ
たので

軽率じゃ
ありません

小山は
頼朝殿に

頼朝殿はあなたがつて
いました

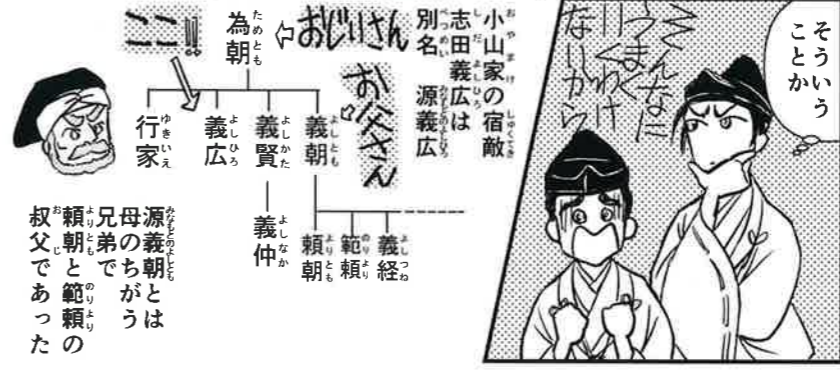
私は頼朝殿の
乳母だった



小山は
頼朝殿を平家から
いたのですから

ここはぜひ
頼朝殿に

志田つつき
ましたよ



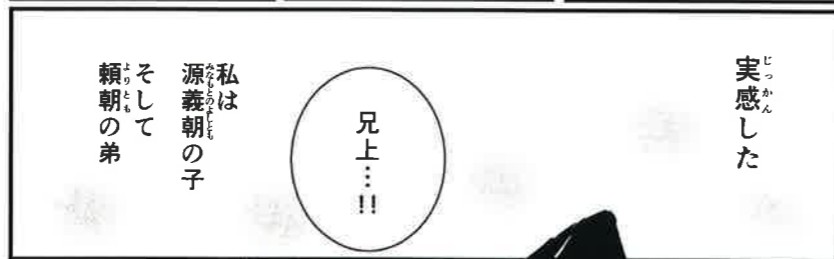


でも今
実際に
兄弟と
呼ばれて

顔も知らぬ
父と兄のため
生きよと言われて

反発した時
もあつた

おおげさな



実感した

兄上…!!

私は源義朝の子
源義朝の弟
頼朝の弟



小山家には
恩があります

何!?

その小山の
所領の下野を
われらの
叔父の
志田義広が
狙っています



みなもとのよりとも
源頼朝

そなたが
六郎…

養父である京の貴族
藤原範季より
名をもらい
今は頼朝と
名乗っています



弟よ!!



さぞかし
苦労したで
あろう!!

一平家
に討つて
新世を
作ろう!!



ありがたくは
なさそうだ

叔父上に
勢力を拡大
されるのも

ただ小山が
負けて

力が無い
ということ
はわかった

まだ頼朝には
小山のために
兵を動かす
ほどの



ならば
我らの力を

見せようでは
ないか!!



そして
その日が来た

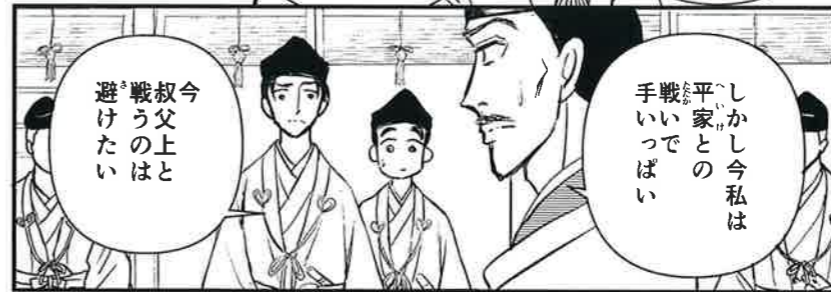
1181年 下野国 野木宮



うむ...

兄上に
敵対する
強大な勢
力になる
でしょう

もし叔父
が下野を
入れたら



今叔父と
戦うのは
避けたい

しかし今
私は平家
との戦い
で手強い



母上は
考えが
浅いので
す

まあ
そう言
うな

母君の
みは
は
ず
れ
た
な



下野の
ことは

小山
に
ま
か
せ
に
る



朝政—!!

朝政!!



大丈夫です
範頼殿

傷は浅い



東に
陣を張れ

もうすぐ
援軍が来る

深追いは
するな



おびき出された
義広は野木宮で
小山軍に
襲われる

小山の
小せがれめ!!

だまし討ち
とは
ひきょうな!!

ひきょうは
あなただ
叔父上

小山に兵が
いない時を
狙って来たので
あろう

志田義広



東へ!!

退却だ!!

なんだと!?

私は
源義朝の子にして
頼朝の弟

源範頼

小山家の
助太刀に
来た

待て!!



範頼殿!!

三万騎に…

勝った…



今だ!!

火矢を撃て!!



東南から
暴風が
巻き起こった



私は源氏の頭領
源義朝の子!!

野木宮合戦

それは
源範頼の名前が
歴史に
初めて登場し
勝利だった
戦いだった



視界は
さえぎられ
大混乱に
陥った

暴風は
火の粉と
灰を巻き上げ



地獄谷
登々呂木澤は
兵士の死体で
埋まった

そして
戦いは終わる



行平!!
古我と高野の
渡りを固めろ!!
敗走兵を
討て!!